

見る人を異邦人にするイメージ

Les images qui transforment les spectateurs en étrangers

松本潤一郎

Junichiro MATSUMOTO

一人の異邦人がこの国を撮る

彼は何を撮ったのだろう

橋の下のホームレスの家

鉄塔

壁の落書き

八百屋の店先

或るアパートの内部

ガレージ

海

散歩する老人

神社の絵馬

公園

その他

ときにモノクロームで

ときにカラーで

これらのイメージは

日本人が撮りたくなる場所や風景ではない

日常生活の中でよく目にしていながら

日常生活の忙しさゆえに見過ごしてしまうもの

そしてときには

見過ごさないと日常生活が妨げられるかもしれないもの

も交じっている

だからたしかに

ここに映されているイメージは

誰もがイメージする「日本」ではない

それだけではない

これらのイメージを見る者もまた

一人の「異邦人」になる気がする

これらのイメージは一人の異邦人によって撮られた

そしてこれらのイメージを見る者もまた異邦人になる

エキセントリックではなく
エキゾティックでもない
しかし
この風景に
この世界に
少しでも
違和を
苛立ちを
悲しみを
怒りを
優しさを
感じる人なら
その人は
これらのイメージを見ることによって
一人の異邦人となるだろう

Junichiro Matsumoto

né en 1974 à Tokyo, chercheur en littérature française

Traductions en japonais :

Alain Badiou, "*Le siècle*" (2008, éditions FUJIWARA) "*Saint Paul*" (2005, éditions KAWADÉ)

"*L'éthique*" (2004, éditions KAWADÉ)

Pierre Klossowski, "*Un si funeste désir*" (2008, éditions KAWADÉ)

Alphonso Lingis, "*Foreign Bodies*" (2006, éditions KAWADÉ)

Slavoj Žižek, "*MAO TSE-TUNG and ROBESPIERRE*" (2008, éditions KAWADÉ) "*Iraq: the borrowed kettle*" (2005, éditions KAWADÉ)

Ouvrage :

Deleuze, le submerge de devenir (collaboration avec Noriyoshi OHYAMA, éditions HAKUSUI-SHA)